

例会記事

七月例会 七月二十三日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

- 一、アンブローズ・パレの針が曲った 大村 敏 郎
一、小石元俊の「経験方録」について 津 田 進 三

例会講演要旨

アンブローズ・パレの針が曲った

大村 敏 郎

アンブローズ・パレ (Ambrose Paré, 1510頃～1590) の外科は十六、七世紀のヨーロッパに広まって、鎖国中のわが国にもオランダ商館医の手によって、パレ全集のオランダ語版がもたらされた。

これはわが国に最初にとどいた系統的な西洋外科書であると共に、一部が訳されて西洋外科の翻訳書(現代でいう翻訳とは少し意味が異なる)の第一号として、一七〇六年の紅夷外科宗伝(植林鎮山著)が生れてくる。

それには色々の曲折を経ており、文字通り曲って伝わった部分があるので、そのいくつかを指摘しながらパレを見なおしてみたい。

(一) 全集の中でパレ自身がトリノ旅行を一五三六年と書いているのだが、実は一年あとのことで、記憶がおぼろげなほど後に

なって旅行記を書いているのである。したがって、その旅行記の中に初めて登場する「私が処置をし、神がこれを癒し給うた」(Je le pensay, et Dieu le guarit) という名言は治療の現場で、患者の感謝の言葉に答えて言ったものではないことを指摘しておきたい。

(二) ジョゼフ・フランソア・マルゲーニユ (Joseph Francois Maigne, 1806～1865) が一八四〇～四一年に完全本と称するパレ全集の復刻を行った。同じ頃パレの生地にブロンズ像も建つ、いわばパレのルネッサンスと言うことが出来る。マルゲーニユはパレに至る外科の歴史を述べ、右に述べた名言を外科医の謙虚な姿勢として高く評価したのである。ただしその名言の綴りを一カ所誤って伝えてしまったのが残念である。

(三) パレの性格は名言によって大変謙虚な点のみが伝わっているが、実はもっと強い個性の持主で、医学と宗教の面ではゆずらなかつたし、その他の点では柔軟な姿勢をみせて、巧みな世渡りをしていることを、数多く出版した文献の扉絵の中に、国王のイニシアルがちりばめてあることから考えられる。

(四) パレの有名な肩関節脱臼整復図のうち、特殊なバーを使用する方式があるが、日本ではバーの詳細な図が全く欠損したまま伝わっている。蘭書から最初に書きうつした絵師の書きおとしにちがいない。現実には使わなかつたかもしれないが、パレを象徴する位の図だから正しく伝達してほしかった。

(五) 最後にカスガイ膏と呼ばれている顔面外傷の形成術の絵を集めて検討した所、原著のフランス版では一本の直針でぬって

いる図なのに、日本のはいずれも曲針になっており、しかも両端針になっている。また時代が後へ進むほど糸の姿が見えなくなっていく。この間の経過をたどってみると、オランダの木版にまぎらわしいものがあり、その変形が強調された新しい木版を使用した版が、たまたま日本に到来した最初の本であったために、わが国の針が原著とちがって曲ってしまったものと解った。その本とはウィレム・ホフマン (Willem Hoffman) が楢林鎮山 (1638~1711) に渡した一六四九年版の、パレ全集オランダ版である。この年アムステルダムではシッペル (Schipper) 版とウィレムス (Willems) 版二種が出版されているが、前者が針を曲げしかも二本にしているのである。この本が日本の針の図を曲げさせてしまった罪を作りながら、それ故に自分が最初に日本に到達したのであることの証拠も残したのである。震災で焼失したとされているホフマン由来の幻の本と同じ版の一六四九年のシッペル版をこの春大阪の適塾で見かけたことから、曲った針の謎を解くことが出来たのであった。

小石元俊の「経験方録」について

津 田 進 三

小石元俊は関西にはじめて蘭学を主唱した人として著名であるが、自らはオランダ語を解しなかったので、その医学は蘭方というよりは漢蘭折衷のものであったといわれている。

一方また、元俊は親試実験の学風を体現した人物であって、良方と聞けば有名無名、親疎、あるいは遠隔を問わずにその伝方を

求めて、治方を考究したことでも知られている。

石川県立郷土資料館(大鑑彦太郎文庫)所蔵の「経験方録」は、小石元俊が各地から良方を得て編輯した処方集であるが、その採集の人数、地域ともに広範囲にわたっている。元俊の医術を知る上で貴重な資料であろうと思われる。

一、本書所収の処方数は二八六方である。

一、伝方者は家方名が明記されたものは一〇七人、二〇一方であるが、このうち同一人からの伝方が多いものは、熊谷文台の九方、小野蘭山、河埜意仙、高陽朴の各八方、沢周倫の七方、熊谷文泰、芝林蔵の各六方、石川支常の五方、などであって、杉田玄白からは三方が伝えられている。

一、「先生方」とあるのは、淡輪元潜、山脇東洋、小野蘭山、今枝栄濟の四人である。

一、曾昌啓から伝方の三方には、いずれも「西洋方」と記されている。

一、ミキステコール方などカタカナの名の処方もの六方が含まれている。

一、岩永家の「靈丹方」は、水銀を使用した駆梅劑であるが、その製法も記されている。

一、本書の成立年代も、写本者もまだ不明であるが、文中に「元按……此人、伝此方於小先生」との記載がある。